

# 子宮頸がん検診を受けましょう！ 細胞診に加えHPV検査も同時に受診できます！

## 子宮頸がん郵送検診のご案内



自宅でできる！  
無料！

子宮頸部細胞診検査に加えて子宮頸がんを引き起こす「ヒトパピローマウイルス」感染の有無を調べる検査（以下HPV検査）を実施します。自宅で検体採取し、郵送する検査です。この機会にぜひご受診ください。



タンポン状の器具を膣に入れ子宮頸部の細胞を採取します。  
※妊娠中の方は申込できません。

一度の採取で二つの検査を同時に受けられます！

### 細胞診とHPV検査を併用するメリット

- ① **がんになる前(前がん病変)の段階を高精度**に見つけることができます。
- ② 前がん病変で見つけることができれば、**子宮を残して治す**ことができます。
- ③ 将来がんになる**“リスク”**もわかります。

### 一般的な検査

#### 細胞診

子宮膣・頸部の細胞を顕微鏡で調べます。がん細胞や異型細胞(前がん状態)の段階を見つけます。



さらに!!  
リスクがわかる!

#### HPV検査

子宮頸がんを引き起こす13種類のハイリスク型HPV感染の有無を調べる検査です。

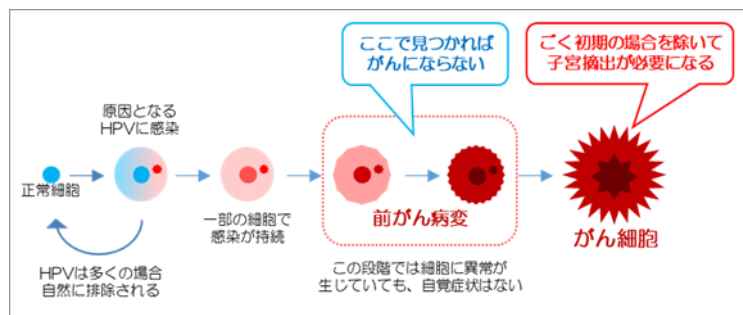


+

## 子宮頸がんについて

### ◆HPV持続感染が原因

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染によって発生します。HPVは性交渉により感染するありふれたウイルスです。通常は感染しても免疫力で自然に排除されますが、約10%の人では感染が長期間持続します。このうち自然治癒しない一部の人には前がん病変を経て、数年以上をかけて子宮頸がんに行進します。



### ◆HPV検査で陽性だったら

陽性者には、「一時的な感染」と「持続感染」があります。細胞診の結果で問題がなければ陽性であっても驚くことはありません。

HPV検査で陽性の結果を受け、不安になる方がおられますが、性交渉経験者の80%が一度は感染し、90%が自己免疫により自然消滅します。多くは一過性の感染ですが、気づかないうちに「前がん病変」や「がん」に行進しないように、**HPV検査で陰性を確認するまで一定の間隔で経過観察を続ける必要があります。**